

進化経済学会
ニューズレター vol.24
May 2008

進化経済学会事務局
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19
国際文献印刷社内
T:03-5389-6493 E:evoeco-post@bunken.co.jp



*****記事*****

第12回進化経済学会・鹿児島大会を終えて

第12回会員総会記録・理事会報告

2007年度下半期・部会活動報告

サマースクール・オータムカンファレンスのお知らせ

第V期役員選挙のお知らせ

学会員名簿異動

編集後記

第12回進化経済学会鹿児島大会を終えて

第12回進化経済学会鹿児島大会は、「地域ネットワークとイノベーション～知識、制度、進化～」を統一テーマとして、3月22日（土）と23日（日）の二日間、鹿児島国際大学で開催されました。非会員や外国の方々も含め約150名が参加した大会は、各所でディスカッションや交流する姿が見られるにぎわいとなり、予定通り日程を終えることができました。

今大会のプログラムでは、同時開催するセッション数をなるべく絞り、参加者が聞きたい報告が重ならないようにしたいと考えました。口頭発表セッションに登録されたのは最終的に38となり、結果的に4つの部屋に分かれることになりましたが、会場ごとにある程度分野を揃えるようにと考え、配置を試みました。今回のセッションテーマは全部で14でした。「組織とネットワーク」「思想・経済学史的アプローチ」「進化ゲーム、実験経済学」など、進化経済学会で例年継承されているセッションと、オーガナイズドセッションとして組織された「進化経済学テキストブック」のセッションがありました。そしてこれらの締めくくりとして、J. S. Metcalfe マンチェスター大学教授の招待講演“Evolution and Competition: a Reappraisal”が行われました。これらのセッションでの報告と討論を通じて、ミクロ・マクロ双方の秩序形成とそれらの関連について、多くの知見が交換され、理解が進められたように感じています。また、今回の統一テーマでは「地域」という言葉を掲げましたが、地域経済や産業振興に関する報告が多く見られたのは本大会の一つの特徴で

あったように思います。この中でも、新しい制度や組織を目指す具体的な取り組みについての報告があったことも特徴的でした。学説史や方法論、理論研究と、実践を目指した事例研究とが共存し、互いに刺激を与え合うことができるということは進化経済学会の存在意義の一つだと思います。今回の大会でもこのような目的の一つ果たすことができたのではないかと考えています。「地域を考える」という課題は曖昧な問いではありますが、地域経済の衰退問題と地域振興の取り組みが注目を集めている近年の状況に対して進化経済学がどのような関わりを持ちうるのかという問題はこれからも問われ続けるものと考えています。

ポスターセッションでは9本の報告がありました。今回は22日、23日両日共に1時間ずつポスターセッション専用の時間を設けるという試みを行いました。これはなるべく多くの人に足を運んでもらい、ポスターセッションの醍醐味であるフランクな議論の場をさらに活発化したいというもくろみでした。この時間中、会場はかなりのにぎわいを見せ、当初の狙いはまずまず満たされたのではないかと考えています。

この他の大会運営上の工夫としては、送迎バスを設けて利便性を高めたことと、ほとんどの会員が遠隔地からの参加になることを配慮して大学院生向けの参加補助を出したことがあります。送迎バスは特に鹿児島市内との往復便で多くの利用があり、タクシーを追加手配するほどとなりました。また大学院生の補助についても約30名の利用があり、わずかでも参加を促進できたのではないかと考えています。また、懇親会の設営は、鹿児島国

際大学にカフェを開いている地元の主婦グループと魚市場に出入りしている魚屋にお願いしました。いずれの業者にとっても初めての挑戦であり、ささやかながら学会活動を通じた地域おこしになったのではないかと思います。結果として手作り感のある、悪くいえば洗練されていない会となりましたが、その分、地元の食材をふんだんに使った鹿児島らしい料理を並べられたのではないかと思います。

その一方、運営上の反省点も数多くあります。準備段階で不手際があり、種々のお願いや会員へのお知らせなどが遅れてしまったこと、それが尾を引いて大会CDをお届けするのが間に合わない事態になってしまったこと、大会プログラムと飛行機の便との連絡をうまくつなげず、一部の参加者が最後の招待講演を聴くことができなかったこと、学説史や経済史のセッションが会員構成から見て手薄になっていることなどです。特にプログラム作成では、当初最短で1泊2日での参加が可能になるように検討しましたが果たせず、参加者によっては前後泊合わせて3泊4日での学会参加となったケースもあったかと思います。実行委員会では、こうした面から会員には多々ご不便をおかけしたことを反省しています。にも関わらず100名を優に超える会員の参加があったことは、運営委員会にとってはとても大きな励ましになりました。

最後に、ご協力いただいた報告者、司会者、そして会長、副会長、学会理事と事務局の皆さんには大変お世話になりました。運営委員会を代表して厚く御礼申し上げます。また、鹿児島国際大学には、送迎バスと院生参加補助などの大きな支援を頂き、大会運営でもご協力いただき

ました。ここに記して感謝の意を表します。次回岡山大会がさらに大きな成功を収められることを祈念して今大会の概要報告としたいと思います。

鹿児島大会運営委員長 瀬地山敏



進化経済学会第12回会員総会記録

記録作成者(八木紀一郎)

1. 進化経済学会第12回会員総会は、2008年3月23日(日曜)の11時10分から、鹿児島国際大学7号館で開催された。議長には、岡村東洋光会員が選出された。

2. 最初に八木会長から、第4回および第5回の理事会で有資格と認定された入会申込者を入会させるならば、退会者を差し引いて、学生会費半減措置を受けない個人会員は402名(休会2名含む)、学生半減措置を受ける個人会員(通称「学生会員」)は95名(休会3名含む)となると、会勢報告があった。しかし、3月31日には年度末退会者が5名あり、また、約20名の会員にたいして会則第7条が適用される見込みである。2008年度には、次期の役員選挙が実施されるので、それにあわせて正確さを期して会員名簿を作成する予定である。[退会者については、第5回理事会報告を参照。]

3. 第4回理事会で有資格と認定した5名、第5回理事会で有資格と認定した10名の入会を承認した。なお、配布されたリストの推薦者の欄にミスがあることが指摘され、名簿に掲載する際に入会申込書と照合して訂正することが約束された。

第4回理事会有資格認定者(平成19年度からの会員)

松山 直樹 MATSUYAMA Naoki (大学院生:北海道大学大学院経済学研究科)

相田 慎一 AIDA Shinnichi (専修大学北海道短期大学)

熊川 剛久 KUMAKAWA Takehisa (大学院生:京都大学大学院経済学研究科)

出口 竜也 DEGUCHI Tatsuya (和歌山大学経済学部観光学科)

桐畑 哲也 KIRIHATA Tetsuya (京都大学経営管理大学院)

第5回理事会有資格認定者(第12回大会での発表者は平成19年度からの会員、他は平成20年度からの会員)

栗田 健一 KURITA Kenichi (大学院生:北海道大学大学院経済学研究科博士課程)

橋本 圭司 HASHIMOTO Keiji (追手門学院大学経済学部)

近藤 勝則 KONDO Masanori (総務省)

岡本 健志 OKAMOTO Takeshi (大学院生:東京大学大学院学際情報学府)

劉 昱立 LIU Yu-Li (大学院生:東京大学大学院学際情報学府)

原田 勉 HARADA Tsutomu (神戸大学経営学研究科)

Sebastien LECHEVALIER (EHES- Centre Japon)

高橋宏幸 TAKAHASHI Hiroyuki (大学院生:日本大学経済学研究科)

今福 啓 IMAFUKU Kei (獨協大学経済学部)

小川智滋 OGAWA Tomoji ((株)協同医薬研究所)

4. 会長から学会の今年度の収支状況と資産状況が説明された。今年度は『進化経済学ハンドブック』の印税などの臨時収入もあったが、平成20年度への繰越金は若干減少する見込みである。

5. 平成18年度決算書が示され、監査委員の監査報告を了承して、決算を承認した。[決算書はニューズレターNo.23を参照。]

6. 会長から平成20年度の予算案が示され承認された。予算案の主要点は以下のとおりである。

収入の部 前年度繰越 2,450,000 円
会費 4,510,000 円

総計	6,960,000 円
支出の部 大会費	1,000,000 円
英文誌編集刊行費	2,000,000 円
通信費	200,000 円
交通費	200,000 円
事務雑費	50,000 円
謝金	40,000 円
送金手数料	20,000 円
会議費	100,000 円
印刷費	200,000 円
事務委託費	600,000 円
国際交流費	100,000 円
部会補助費	300,000 円
経済学会連合	35,000 円
小計	4,845,000 円
次年度繰越	2,115,000 円
総計	6,960,000 円

7. 第12回大会の進行状況について、瀬地山敏大会運営委員長から説明があった。また、前日の理事会で第13回大会を岡山大学で開催することを決定したことの報告があった。大会日程は、2009年の3月28－29日を予定している。オータムコンファレンスの日程は調整中である。[その後、岡山大学の清水耕一会員から2008年9月21日に開催予定という連絡があった。]

8. 前日の理事会で、第V期の役員選挙を秋の定例理事会後の2008年度後半に実施すること、また中原隆幸、小川一仁、山本泰三の3会員に選挙管理委員の職務を委嘱したことが報告され、前記3会員の選挙管理委員への就任を承認した。

9. 有賀裕二編集委員長から、国際英文誌 Evolutionary and Institutional Economics Review の刊行・編集状況、またJ-STAGEでのダウンロードなどにみられる国際的な反響について報告があった。さらに、J-STAGEの開発した「投稿審査システム」についての説

明、機関サブスクリプションの拡大についての要請がおこなわれた。

10. 昨年9月の第VI期第4回理事会で「観光学研究部会」の設立が承認され、昨年度から活動を開始した「北海道・東北地方部会」と合わせて6部会が存在して活動していることが報告された。[詳細は次号ニューズレターを参照されたい。]

11. 前日の第5回理事会で定めた「会計監査規定」が示され了承された。監査委員の独立性を明記するとともに、これまで不明確であった任期や、受け入れた補助金などの会計監査についても定めている。[添付資料を参照。]

12. 会長から2008年1月24日付で「日本学術会議協力学術研究団体」に指定されたことが報告された。

以上

進化経済学会第IV期第5回理事会報告

(作成

者:八木紀一郎)

1. 進化経済学会第IV期第5回理事会は、2008年3月22日(土曜)の12時10分から、鹿児島国際大学7号館3階会議室で開催された。出席者は、会長、副会長、2監査委員、19理事で、また9理事が議長あて委任状を提出した。

2. 最初に会長から会勢報告があり、第4回理事会以降、退会者は4名(長谷川真理子、西村周三、手島直明、脇村孝平の4会員)、入会申込者は10名あるので、後者の全員の入会が承認されるならば、学生会費半減措置を受けない個人会員は402名(休会2名含む)、学生半減措置を受ける個人会員(通称「学生会員」)は95名(休会3名含む)となる。なお、これは第4回理事会での入会資格認定者5名と

会員種別変更者1名をカウントした数字である。しかし、3月31日には年度末退会者が5名（青木統夫、生駒孝夫、西山賢一、岡部洋實、熊川剛久の5会員）ある。また、約20名の会員にたいして会則第7条が適用される見込みである。2008年度は次期の役員選挙が実施されるので、正確さを期して会員名簿を作成する予定である。

3. 第4回理事会以降に入会を申請した10名を有資格者として認定した。

[第12回会員総会報告の該当項目のリストを参照]

4. 会長から学会の今年度の収支状況と資産状況が説明された。今年度は『進化経済学ハンドブック』の印税などの臨時収入もあったが、平成20年度への繰越金は若干減少する見込みである。

5. 本学会の平成20年度の予算案が示され、審議をへて採択された。なお予算案を作成した会計担当理事（議長委任欠席）から、増ページした国際誌の編集・印刷・配布などのために、過去の蓄積を取り崩している状態であるので、今年度中に打開策を実施する必要があるという考えが示されているという紹介があった。[予算案の主要点は、第12回会員総会報告の該当項目を参照]

6. 第12回大会の進行状況について、瀬地山敏大会運営委員長から説明があった。

7. 会長から第13回大会を岡山大学で開催するという提案があり承認された。岡山大学の清水耕一理事から、2009年の3月28-29日という大会日程案が示された。オータムコンファレンスの日程も示されたが、なお調整中である。[その後、清水理事から9月21日に開催予定という連絡があった。]また、「サマースクール」をオータムコンファレンスの前後に開催するかどうかは、「サマースクール」を組織する会員のグループの判断にまかせるとして、

江頭進理事にそのとりまとめと実施を依頼した。

8. 会長から、第V期の役員選挙を秋の定例理事会後の2008年度後半に実施することがはかられ、そのように決定された。

9. 中原隆幸、小川一仁、山本泰三の3会員に選挙管理委員の職務を委嘱した。

10. 有賀裕二編集委員長から、国際英文誌 *Evolutionary and Institutional Economics Review* の刊行・編集状況、またJ-STAGEでのダウンロードなどにみられる国際的な反響について報告があった。さらに、J-STAGEの開発した「投稿審査システム」についての説明、機関サブスクリプションの拡大についての要請がおこなわれた。

11. 「非線形問題研究会」と「制度とイノベーションの経済学部会」から活動報告が配布された。その他の部会の活動報告とともに、次号のニューズレターで現在ある6部会の活動状況の報告・紹介をおこなう。

12. 会計監査についての規定を整備する必要があるとして、会長から「会計監査規定」（案）と「会計運営にかかわる規定（メモ）」が示され、そのうち前者について審議がおこなわれ、監査委員の任期を設けること、補助金等の会計監査の条項を設けることの2点の修正を付加した「会計監査規定」を決定し、会員総会に報告することとした。「会計運営にかかわる規定（メモ）」は、審議の対象にはならなかった。[「会計監査規定」は第13回会員総会報告に資料として添付]

13. 会長から2008年1月24日付で「日本学術会議協力学術研究団体」に指定されたことが報告された。また、日本経済学会連合の各種学術援助への申請についての説明があった。

以上

進化経済学会平成20年度予算(案)

(平成20年4月1日 ~ 平成21年3月31日)

(単位:円)

収入予算		支出予算	
概要	20年度予算額	概要	20年度予算額
前年度繰越*	2,450,000	大会費	1,000,000
会費		英文誌編集刊行費*	2,000,000
(内訳)	4,510,000	通信費	200,000
正会員		交通費	200,000
(400名)	4,000,000	事務雑費	50,000
院生会員		謝金	40,000
(92名)	460,000	送金手数料	20,000
賛助会員		会議費	100,000
(1団体)	50,000	印刷費	200,000
		事務委託費	600,000
		国際交流費	100,000
		部会補助費	300,000
		経済学会連合	35,000
		小計	4,845,000
		平成21年度への繰越	2,115,000
総計	6,960,000	総計	6,960,000

*前年度繰越金は2月末中間決算報告よりEIER4(2)関連支出およびニュースレター23印刷費を控除した金額(概算)を計上している。

*英文誌編集刊行費は平成20年度予算では一冊当たり印刷費を75万円として計上している。

部会案内と活動報告

観光学研究部会

進化経済学観光学研究部会は、2007年9月の理事会で提案され、翌年3月の総会で承認された新生の部会です。

近年、日本における観光産業への期待は高まりを見せており、新たに多くの観光系学部・学科も設立されるなど学問的深化への期待も大きくなっています。しかしながら、これまで観光学への学問的貢献は実務主導で行われ、特に社会科学的な立場からの研究は、他分野に比べて大きな後れをとっていました。また、観光振興を旗印に地域開発がなされる例は枚挙にいとまがありませんが、理論的根拠に基づかず、経験的になされる地域開発は、かえって地域を疲弊させてしまう状況も見られました。

このような状況下、観光学を学術的に研究し、更には地域貢献への新しい可能性を探るため、進化経済学会の有志が集まり、今回の部会設立と相成りました。

観光という営為は、多面的な性質を持ち、その学問的解明のためには、経済学・経営学・社会学をはじめとする様々な分野のエキスパートがそれぞれの立場からアプローチを試みる必要があると考えています。会員諸氏の積極的な参加をお願い申し上げます。

活動予定としては、年数回の研究会を企画していますが、進化経済学会は地方の部会もある為、地域に根ざした活動をされている方々との研究も深めて参りたいと思っています。

現在、運営体制は、部会長の井出明（首都大学東京）と幹事の井上泰日子（日本航空）の二人三脚で行われています。部会のHPも

<http://tourism-research.info/>に準備しました。これから積極的に情報を発信していくつもりです。また、部会独自のML（メーリングリスト）も設置しています。こちらのMLでは、学問的なトピック以外にも、地域振興や観光開発に関係した情報をお伝えする予定です。登録希望の方は、上記HPから入っていただくか、部会長の井出 (akiraide@gakushikai.jp) まで、申し込みメールを送っていただきますと幸いに存じます。みなさま、どうぞ末永いおつきあいを、よろしく願いいたします。

北海道・東北部会

北海道・東北部会は関東以北における唯一の部会である。しかも北海道・東北地方という、他の部会に比べるとかなり広い地理範囲に分散する会員によって構成されている。各自の関心も経済学説史的なものからマルクス経済学、ポスト・ケインズ派経済学、制度派経済学、複雑系経済学、実験経済学など多岐にわたる。よって、他の部会のように特定のテーマを掲げるのではなく、地方名を冠することとした。

本部会では、年二回(夏、冬)の研究会とサマースクールを実施していく予定である。部会発足後、2007年10月14日(日)と2008年2月28日(木)に北海道大学で研究会が開催された。10月は吉田昌幸(北大院)「企業家活動論における企業」と吉井哲(北大院)「The Notion of Long-Period Position Revisited」が報告され、2月は小林大州介(北大院)「商品研究における人工物進化概念の適用—携帯電話端末の事例—」と西部忠(北大教員)「分散的発行通貨と集中的発行通貨の特性比較」が報告された。今年度は、夏の研究会をサマースクールと兼ねて8月下旬に東北大学で開催する予定である。

過去の発表からも見て取れるように、本学会の設立趣旨の一つは若手研究者の育成にある。サマースクールでは大学院生も交えたり形式の発表を行うことで、研究者相互の意見交換や討議を活性化するとともに、今後、ピアレビュー制による論文集刊行など成果発表の場を設けることが企画されている。さらに冬の部会は、本大会で発表する若手研究者の「プレ発表の場」としても積極的に活用していく予定である。

進化経済学会は多様な研究領域をカバーするが、会員数では西高東低の傾向が強い。ネット時代とはいえ、「距離」や「地方」が重要な要素であることに変わりない。部会員が交流・結束し、よい刺激を与えあうことで研究の更なる発展を目指し、進化経済学会の西高東低型の気圧配置を少しでも変化させられればと願っている。

2007 年度非線形問題研究部会報告

進化経済学会非線形問題研究部会の 2007 年度研究会は下記の活動いたしましたのでご報告申し上げます。活動は電子メイリングリスト evoeco.japan のほかに、有賀のホームページ (<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~aruka/activities.html>) で案内しています。

1. 研究会セミナーの開催

進化経済学会非線形問題研究部会 2007 年度 No.1

<Econophysics セミナー>

主催:平成 19 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))課題番号 18510134(研究課題名:異質的相互作用エージェントの認識場と社会・秩序形成; 研究代表者 有賀裕二)

日時 2007 年 11 月 1 日(木)13:00-17:00

場所 中央大学駿河台記念館 220 号室

第一部

講師 Prof. Bertrand Roehner (Institute for Theoretical and High Energy Physics, University of Paris)

論題 Housing price peaks in comparative perspective

第二部

講師 Prof. Takashi Hashimoto (JAIST:Japan Advanced Institute for Science and Technology)

論題 Three undecomposabilities and constructive approach in complex systems: On endogenous dynamics of macro structure

進化経済学会非線形問題研究部会 2007 年度 No.2

<Econophysics セミナー>

主催:中央大学理工学部物理学科 共催:進化経済学会非線形問題研究部会

日時 2007 年 11 月 9 日(金)16:30-18:00

場所 中央大学後楽園キャンパス 1 号館 1217

講師 Prof. Bertrand Roehner (Institute for Theoretical and High Energy Physics, University of Paris)

論題 Econophysics: challenges and promises

進化経済学会非線形問題研究部会 2007 年度 No.3

<Multi-agent system セミナー>

主催:平成 19 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))課題番号 18510134(研究課題名:異質的相互作用エージェントの認識場と社会・秩序形成; 研究代表者 有賀裕二)

日時 2007 年 11 月 25 日(土)13:00-17:00

場所 中央大学駿河台記念館 220 号室

講師 谷本潤氏(九州大学大学院総合理工学研究院教授)

論題 進化ゲーム理論における協調創発機構に関する研究の周辺

講師 山下倫央氏(産業技術総合研究所 情報技術研究部門)

論題 安全・安心・快適な都市生活の実現に向けたマルチエージェントシミュレーション

繰越金 278 前期より繰越
部会補助費 50,000
収入合計 50,278

**進化経済学会非線形問題研究部会 2007 年度
No.4**

<実験経済学セミナー>

主催: 専修大学社会科学研究所

日時 2007 年 12 月 8 日(土)14:00-17:30

場所 専修大学神田校舎 7号館(大学院棟)7階
773教室

講師 小川一仁氏(大阪産業大学 経済学部)

支出の部

50,000 INSC08 での Hawoong Jeong 氏(Korea
Advanced Institute of Science and Technology)への
講演謝礼 From Topology to Dynamics of
Complex Networks at Session (March 14, 2008)

次期繰越 278

支出合計 50,000

論題 進化経済学における実験手法について—
過去・現在・未来(?)—

以上のとおり相違ありません。

非線形問題研究部会 有賀裕二(文責)

近年、経済実験は学派を問わず活用されており、
進化経済学にあってもボウルズ、ギンティスとい
った人々が経済実験の成果に依拠しつつ、経済
システムの進化を取り扱っている。本報告では、
経済実験の視点から、いわゆる主流派経済学の
近年の流れを概観した上で、経済実験が進化経
済学にどのような果実をもたらしてきたか、もたら
そうとしているのか、もたらさうのかを論じる。

「現代日本の経済制度」部会活動報告

<第一回>

日時:2007 年 4 月 8 日(日) 13:00~17:00

場所:京都・京大会館 102 号室

統一テーマ: 資本主義レジームの多様性

**進化経済学会非線形問題研究部会 2007 年度
No.5**

3rd International Nonlinear Science Conference

INSC08 March 13 to 15, 2008

<http://www.societyforchaostheory.org/insc/2008/>

This project is co-jointly arranged by the
Grant-in-Aid for Scientific Research No. 18510134,
Japan Society for the Promotion of Science

Project Leader: Prof. Dr. Yuji Aruka

を理解する

プログラム

第1部 13:00~14:30

報告者: 磯谷明徳(九州大学経済学研究院)

論題: 「資本主義の多様性の比較制度分析を比
較する——Jackson, G. and Deeg, R. (2006)を素材
とした論点整理——」

2. 会計報告

第2部 15:00~17:00

報告者: Amable, Bruno(University of Paris I,
CEPREMAP, PSE)

収入の部

論題: "Institutions, Unemployment and Inactivity in the OECD Countries"

主催 文科省科学研究費補助金(基盤A)「脱「日独型レジーム」の比較政治分析」(北海道大学) 京都大学経済学会進化経済学会 現代日本の経済制度研究部会

<第2回>

日時: 5月12日(土) 13:00~17:00

場所: 阪南大学 淀屋橋サテライトキャンパス

テーマ:

山田鋭夫・宇仁宏幸・鍋島直樹編

『現代資本主義への新視角 多様性と構造変化の分析』(昭和堂、2007年)合評会

評者

若森章孝氏(関西大学)

有泉 哲氏(茨城大学)

<第3回>

日時 7月14日(土)13時~17時

場所 名古屋大学経済学部 経済学部棟 4階 演習室 14

テーマ

1 ベルナルシャバンス著『入門制度経済学』(宇仁宏幸・中原隆幸・斉藤日出治 訳)合評会

評者 藤田菜々子氏(名古屋市立大学)

藤田真哉氏(名古屋大学)

2 関連報告「制度主義はなぜ多様なのか——調整の重層性との関連で」

宇仁宏幸氏(京都大学)

<第4回>

日時 12月 8日(土)

京都大学 経済学部 総合研究棟 1階101演習室13時~17時まで

報告テーマ

第一報告「派遣労働の現状と課題—資本系派遣会社の事例を中心に—」

水野 有香 氏(大阪市立大学大学院 経済学研究科)

第二報告「90年代末の日本と韓国における労働市場政策の変化—労働者派遣法の改正過程を中心に—」

安 周永 氏(京都大学大学院 法学研究科)

<第5回>

日時: 2月17日(日)13時~17時

場所: 横浜ランドマークタワー18階 横浜国立大学サテライトキャンパス(横浜国立大学企業成長戦略センターとの共催)

報告テーマ

谷本寛治氏(一橋大学)「企業と社会を考える—CSRにかかわる論点—」

宮本光晴氏(専修大学)「日本のコーポレート・ガバナンスの変化と雇用システムの多様性」

オータムカンファレンスのお知らせ

進化経済学会サマースクールのお知らせ

08年9月20日(土)、午後より第4回サマースクールを開催いたします。お忙しいところ申し訳ありませんが、万障お繰り合わせの上、ご参加頂ければ幸いです。今回は若手研究者育成を主眼といたしまして、2部構成で開催いたします。開催時間など、詳しい内容はメーリングリストで随時お知らせいたしますが、現在の所確定しているのは、以下の内容です。皆様が指導されている院生さんや、ポスドクなどの若手研究者の皆さん、是非ご参加ください。

第1部: 研究の探し方

第1 演者: 橋本敬准教授(JAIST): TBA

第2 演者: 筒井淳也准教授(立命館大学): TBA

第2部: 研究計画の書き方

教えてくれそうで、誰も教えてくれない研究計画の書き方を解説します。最初に1, 2名の研究計画を添削します(座学)。そののち、参加者が持参した研究計画を、合評会形式または個別添削形式で、ブラッシュアップしていきます。